

## 介護技術委員会 ～待つことが出来なかった私達～

介護事業部 施設サービス課 介護係

ケアワーカー 鈴木 利子  
山本 聖美

### 介護技術委員会の取り組みについて

平成21年より大堀先生に研修を受ける

- ・介護技術の習得
- ・「動き出しはご本人から」  
を基本とした待つ介護

### 「待つことが出来なかった私達」 とは？

- ・過剰な介護
- ・気持ちの理解が出来ていなかった
- ・関わりより効率の良さを優先していた

- ・事例報告
- ・研修を通しての学び
- ・今後について

### いこいG事例 N様

- ・年齢92歳 当初 要介護5  
半年後は 要介護4

アルツハイマー型認知症  
深部静脈血栓 肺血栓



H26年12月25日 他施設からの入園

情報では

歩かれていたが、転倒、骨折、肺血栓となり入院  
再入所では、車椅子、全介助、オムツ使用

### N様の印象 表情が硬い

同じ言葉を

話される

### 当時の様子

足の力が弱い、座位は出来る、オムツ使用

### 足の力を付けて欲しい

足の上げ下げの実践を始めた  
座位が出来るので  
リハビリパンツ履いて頂き  
2名でのトイレ誘導を始めた

私の中では・・・

実践を続けても

今を維持するだけと  
思いながら続けていた

### 半年過ぎ頃から・・・

転倒が続いた

実践を続けた結果

なぜ転んでしまうのか

N様を知るきっかけとなる

### 以前のN様は

自分の事は、自分で昔からやりたい方

気を使い過ぎる方

歩いていた感覚が  
戻られたのでは

### 実践を続ける事で

伝わりやすい声掛け

### 待つ事

私は、出来ないと思い込み  
待つ事無く行っていた





### N様から気づかせて頂いた事

以前の暮らしを知る事無く  
関わってしまった

自分の事は自分でしたい

気づけず転倒に繋がった



お客様を知る事

数分の関わりが大事

自然と待つ事が出来る

### 他の委員会と共有する事で

足の浮腫みがある



もみ墊と関わる事で



歩きやすい歩行になる

### ほほえみG事例 M様

・身体状況:年齢80歳 女性 要介護5

・平成24年10月5日  
他施設から芦別慈恵園へ入園。



### 当初の様子として...

|    |                           |
|----|---------------------------|
| 会話 | 意思疎通は難しい<br>単語程度での返答あり    |
| 食事 | 食事をあまり見らない                |
| 移乗 | 車椅子使用<br>前方から抱え全介助        |
| 座位 | 柵に掴まる事で可能<br>3分程で傾き見られる   |
| 排泄 | トイレ誘導 (2回)<br>立位不安定な為2名介助 |

### 当時の関わり

- ・気持ちを理解できず、  
介助者の都合で行っていた。
- ・M様が何を出来るのか分からず、  
過剰に介助をしていた。

当時の介護術研修でM様の実践を行なう事となりました。

その時の動画をご覧ください。

### 改めて動画を見たことで

- ・M様の気持ちを理解しようとしていなかったことに気が付いた。
- ・M様の事を信用していなかった為、過剰な介助をしていたことに気が付いた。

自分の介助方法に不安が...

### 委員会で学んだこと

- ・気持ち、動きの尊重
- ・自分自身に置き換え考える

「動き出しはご本人から」

介護技術委員会に入り再びM様の実践を行なう事になりました。

その時の動画をご覧ください。

### その後の関わり

- ・必要な情報をお伝えする
- ・「できますか？」とM様の気持ちを確認する
- ・ゆっくりと行なう

**M様の立場になり考えることで  
動き出しに繋がった**

### M様の暮らし

ご自分から動き出される様になってから、  
お話して頂けるようになった。

たとえば・・・

- ・「トイレに行きたい」
- ・「お菓子を食べに行きたい」等

**出来る事から実現させていきたい！！**

